

1. レビ人の祭司たち、レビ部族全部は、イスラエルといっしょに、相続地の割り当てを受けてはならない。彼らは主への火によるささげ物を、自分への割り当て分として、食べていかなければならない。
2. 彼らは、その兄弟たちの部族の中で相続地を持ってはならない。主が約束されたとおりに、主ご自身が、彼らの相続地である。
3. 祭司たちが民から、牛でも羊でも、いけにえをささげる者から、受けるべきものは次のとおりである。その人は、肩と両方の頬と胃とを祭司に与える。
4. あなたの穀物や、新しいぶどう酒や、油などの初物、羊の毛の初物も彼に与えなければならぬ。
5. 彼とその子孫が、いつまでも、主の御名によって奉仕に立つために、あなたの神、主が、あなたの全部族の中から、彼を選ばれたのである。
6. もし、ひとりのレビ人が、自分の住んでいたイスラエルのうちのどの町囲みのうちからでも出て、主の選ぶ場所に行きたいなら、望むままに行くことができる。
7. 彼は、その所で主の前に仕えている自分の同族レビ人と全く同じように、彼の神、主の御名によって奉仕することができる。
8. 彼の分け前は、相続財産を売った分は別として、彼らが食べる分け前と同じである。

説教

申命記 18 章では、祭司と預言者について教えられます。16 章ではイスラエルの祭りについて教えられ、16 章後半から 17 章前半ではそれを忠実に実行する役人について教えられました。そして、17 章後半から 18 章にかけて、具体的にイスラエルを統治する為政者（役人）たちについて教えられます。その最初が 17 章後半の王についてでした。それから 18 章に入ると、前半では祭司とレビ人について教えられ、後半では預言者について教えられます。これら三つの職務、すなわち国王、祭司、預言者は、イスラエルを統治する三大職務となります。そこで、今回は 18 章前半のレビ人と祭司について学びます。

「レビ人の祭司たち、レビ部族全部は、イスラエルといっしょに、相続地の割り当てを受けてはならない。彼らは主への火によるささげ物を、自分への割り当て分として、食べていかなければならない。」(1) レビ人というのは、神の働きをするために特別に取り分けられた部族のことです。そのうち、祭司はレビ人の中でもアロンの子孫がこれをつとめました。王がもっぱら行政に関わるのに対し、レビ人と祭司は信仰に関わる事柄に当たります。その中心は、神を礼拝する場所である幕屋と礼拝儀式に関わるつとめで、メインの働きは祭司が担い、レビ人はそれを補佐しました。のみならず、他にもいくつかのつとめを担います。

例えば、イスラエルの民に律法を教えるつとめです。レビ記 10 章 11 節には、「主がモーセを通してイスラエル人に告げられたすべてのおきてを、あなたがたが彼らに教える」つとめが祭司に命じられていました。それで、祭司は「教師」と呼ばれています(Ⅱ歴代 15:3)。レビ人もまた人々に神の律法を教える責任を担わされ(申命記 33:10)、実際に人々に律法を説いて歩きます(Ⅱ歴代 17:7-9)。それで、レビ人は、「全イスラエルを教え導く者であり、主の聖なる者であるレビ人たち」と呼ばれています(Ⅱ歴代 35:3)。

そうかと思えば、この他にも、「流血事件、権利の訴訟、暴力事件」といった「争い事」を裁く裁判官として、

神の律法を具体的に適用させて判決を下しました（申命記 17:9, 21:5）。

こうして、レビ人と祭司は、イスラエルに神のみこころである律法を教えます。礼拝を通して、あるいは日常の教育を通して、さらには司法を通して、イスラエルの人々に律法を教えるのです。そうして、人々の間に神の正義と愛を教えて神の栄光を現します。レビ人・祭司はもっぱら神の働きをしました。このように、レビ人・祭司はイスラエルに於ける律法の教師、正式な教職者でした。彼らがイスラエルの人々に律法を教えて人々を霊的に教育し指導しました。今日に於けるみことばの教師である牧師職の原型と言えます。

通常に於いては彼らがイスラエルを霊的に指導しましたが、彼らが律法を忠実に教えない非常時になると、18章後半に登場する預言者なる臨時職が特別に起こされて神のことばを教えるようになります。

神の働きをなすために召されたレビ人・祭司は、神の人、「主の聖なる人」として、人々が神にささげたささげ物で生計を立てることになります。それで、「レビ人の祭司たち、レビ部族全部は、イスラエルといっしょに、相続地の割り当てを受けてはならない」と命じられます。そして、「彼らは主への火によるささげ物を、自分への割り当て分として、食べていかなければならない」と命じられるのです。

この時は荒野でみな等しく貧しい流浪の民ですが、これから約束の地カナンに入れば、それぞれ各部族ごとに広い土地を占領し、そこを所有します。そして、自分の土地を耕し、そこから収穫を得て生活するようになるのです。これがイスラエルの民一般の生活となります。しかし、レビ人はこれとは異なります。すなわち、彼らには「相続地の割り当て」が無いのです。他の部族のように生産手段としての土地を持ちません。つまり、自分の生計を立てる所得がないのです。それで、どう生活するかといえば、人々が神にささげたささげ物、すなわち「主への火によるささげ物」で生活します。そして、これこそが彼らが食べて生きていくための「自分への割り当て分」となります。こうして、「主ご自身が、彼らの相続地」と言われます。

それでは、レビ人・祭司が相続することになる「主への火によるささげ物」とは実際に何を意味するのでしょうか。もともと「火によるささげ物」とは「全焼のいけにえ」、「穀物のささげ物」、「和解のいけにえ」、「罪過のためのいけにえ」を意味していました。このうち「全焼のいけにえ」はすべて煙になってしまいます。それで、それ以外のいけにえの特定の部位が祭司に与えられました。申命記のこの箇所では、ささげ物のうち以下の部分が祭司の分となったことが記されています。「牛でも羊でも」、「肩と両方の頬と胃」(3)、そして、「あなたの穀物や、新しいぶどう酒や、油などの初物、羊の毛の初物」(4)がそれです。この他にも、レビ記と民数記では「和解のいけにえ」の胸と右のものが祭司の分であると記されていました（レビ 7:28-36, 民数記 18:8-19）。

そして、レビ人には、「彼らが会見の天幕の奉仕をするその奉仕に報いて、イスラエルのうちの十分の一をみな、相続財産として与える」と言われます（民数記 18:21）。こうして、人々が神にささげる最上のいけにえがレビ人と祭司の「相続分」として与えられ、神の働きをする彼らの生活と働きとを十分に支えます。彼らが何一つ不自由なく生活して思い切り神の働きをなすことができるよう、イスラエルの民は神にささげるささげ物を適切に支給することで、祭司とレビ人の生活を豊かに支援したのでした。

5 節には、神へのささげ物によってレビ人・祭司を養うべき理由が説明されます。「彼とその子孫が、いつまでも、主の御名によって奉仕に立つために、あなたの神、主が、あなたの全部族の中から、彼を選ばれたのである。」これによると、神は、ご自身の働きをさせるために、レビ人を全部族の中から特別に選ばれました。そして、その働きは単に思いつきや気まぐれに単発でなすべきものではありません。すなわち、神の働きは、気分が乗ればするけれどもそうでなければしないとか、あるいは、お金があればするけれどもお金がなくなればしない、というのでは困ります。それは「いつまでも」継続する働きとならなければなりません。つまり、無責任な気まぐれなボランティアではなく（ボランティアが必ずしも無責任という意味ではありませんが）、きちんとイスラエルの正式な責

任ある職務として機能しなければならない、そうモーセは言うのです。「いつまでも」という言葉は、文字通りには「すべての日に」です。つまり、神は、パートタイムではなくフルタイムで神の働きをする者を必要とし、「すべての日に」フルタイムで神の働きをする奉仕者としてレビ人・祭司を「選ばれた」のでした。

レビ人・祭司にとっては、礼拝を司り、人々に神の律法を教え、その生活に至るまで律法を適用し、人々が律法に従って生活するよう指導することは、彼らの天職なのです。それは、他の部族の人たちのように、畑を耕しながら副業や片手間でできるものではありません。自分の生涯をささげ、全生活を挙げて、全身全霊、全力で、フルタイムで奉仕しなければなりません。そのために、神は彼らを選びました。そして、ご自分にささげられた「初物」という最上のいけにえをもって、彼らの生活と働きを全面的に支えるようになさったのでした。

6節以降では、レビ人が、「主の選ぶ場所」である中央聖所で奉仕がしたいなら「望むままに行くことができる」ことが定められます(6)。普段は地方で人々の霊的な指導に当たることが多かったのだと思いますが、その奉仕は場所に縛られずに中央と地方を自由に行き来できたようです。そして、どこで奉仕をしたとしても、「彼の分け前」すなわち彼の生活費は、他のレビ人と同じ分を支給するよう教えられます(8)。こうして、レビ人は神の働きに思い切り打ち込むことができました。

そして、このことが全イスラエルの霊的な生活を支えることとなります。先の王に関する規定では、王として立てられた者は、金と力と色に気をつけて、聖書をよく読むよう命じられました。このレビ人・祭司の規定では、祭司・レビ人は、自分では世の人と同じような生産手段を持たず、神へのささげ物で生活するよう教えられます。神のものを食べて生きることで、神と命運を共にするよう教えられます。そして、その生活を全イスラエルで支えるよう指導がなされるのです。こうして、祭司と国民の両者が、共に神の教えに従って、神に感謝のささげ物をささげ、それを適切に配分してレビ人・祭司の生活を全面的に支援することで、全イスラエルの霊的な生活を守り、これを支えていくよう、教えられるのでした。

この教会に於いても、神への感謝のささげ物が豊かにささげられ、それがみことばに従って適切に配分されて、みことばの教師として立てられた者が「いつまでも主の御名によって奉仕に立つ」教会として成長していくよう、主の御名により祈ります。